

片瀬のぞみだより

片瀬のぞみ幼稚園

2023年7月号

家庭通信 2023 No.11

7月主題 「心ひらかれて」

7月主題聖句「主よ、朝ごとに、わたしの声を聞いてください。」詩編5篇4節

梅雨明けも間近、真夏の7月に突入しました。子どもたちは太陽の光を受けて輝き、水遊びに興じています。幼稚園の屋根もペンキを塗り替えてピッカ、ピッカです。礼拝堂の床もコーティングをしてこれもピッカ、ピッカです。

幼小の頃、私は早朝、寝床から起き上がり父・母を起こして「腹減った！」と朝食の催促、今日どんなことがあるのかワクワクして一日を始めたことを懐かしく思い起こしています。そう言えば母が毎朝お祈りをしていたことも心の底に焼き付いていました。

何度か病院に入院したことがありました。それも立て続けでした。それまで病院はお見舞いで訪れることがあっても自分が入院することは考えもしませんでした。入院してまず第一に感じたことは夜の長さ、暗さ、静寂さでした。夜中、看護師が見回る足音を聞きながら、自分の病状に脅え震える夜でした。夜明け前が一番暗くなることを思い起こしながら一心に夜が明け、明るい朝のおとずれることを待ち望みました。

「泣きながら夜を過ごす人にも 喜びの歌と共に朝を迎えさせてくださる。」(詩編30篇6節) 朝は希望の始まりです。その始まりを感謝して神様にお祈りして始められるとしたらどんなに心強いことでしょうか。

「主よ、朝ごとに、わたしの声を聞いてください。朝ごとに、わたしは御前に訴え出てあなたを仰ぎ望みます。」(詩編5篇3・4節)

この詩人は火急の訴えを神様に叫び求めているのです。しかも「朝ごとに」です。朝を迎える度に、くり返し、何度でも、聞いてください、と訴え出て神様を仰ぎ望んでいるのです。「仰ぎ望む」とは両手を天に向けて上げ、顔を上に挙げて、諦めないで希望を持ち続けることです。

「怒ることがあっても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません。」(エフェソの信徒への手紙4章26節) そうです、夜を迎える前に謝り、赦し、怒りを静め、夜を過ごし、やがてすっきりして清々しく朝を迎えるのです。感謝の祈りをもって。この朝の私の祈りを聞いてください。

西田直樹